
“冒険人材”の受け入れ方、活かし方

2023年11月19日

法政大学大学院政策創造研究科 石山恒貴

石山恒貴(いしやまのぶたか)

NEC、GE、外資系ライフサイエンス会社を経て現職、法政大学大学院政策創造研究科教授、博士（政策学）



1.冒険人材の背景

地域と人口増加の時代

- ◆ 人口増加の時代
 - ✓ 「集団で一本の道を登る時代」
 - ✓ 「すべてが東京に向かって流れる時代」
 - ✓ 拡大・成長と効率→自動車社会、中心部の空洞化
 - ✓ 時間軸が優位の時代

- ◆ 人口減少の時代
 - ✓ 主観的な幸福
 - ✓ 地域への着陸、ローカル志向
 - ✓ 持続性→街の中心部で歩ける
 - ✓ 空間軸が優位

- ◆ コロナ禍により、過度な都市などへの集中システムの脆弱さがあきらかに。いかに分散型システムを取り入れるか（2020年5月28日日経新聞・広井教授コメント）

「よそ者」とは

- ◆ 「旅の人」「風の人」
- ◆ 道化やトリックスター（排除される存在でもある、ドンキホーテ、賢明なる愚者）
- ◆ アウトサイダー（逸脱する存在）
- ◆ ストレンジャー（旅の芸人、商人、一定期間存在して離脱）
- ◆ まれびと、異人（中心と辺縁を往来する存在、共同体から疎外された存在）

よそ者効果

1. 「地域の再発見効果」→よそ者のまなざしによる地域資源の再発見や評価
2. 「誇りの涵養効果」→よそ者による評価や褒め
3. 「知識移転効果」
4. 「地域の変容を促進」→よそ者の異質性が「驚き」「気づき」をもたらし変容を促す
5. 「地域とのしがらみのない立場からの解決案」

関係人口とよそ者への批判

◆関係人口の勃興（ゼロサム問題回避）

しかし

◆定住人口難しいから関係人口？

◆定住しない「ゆるい人間」が何の役に立つのか？

◆よそ者を「スーパースター」「万能薬」と考え、とにかく関係人口増やす「関係疲れ」

出所) 田中輝美 (2021) 『関係人口の社会学』 大阪大学出版会

地域の大きな物語と小さな物語

- ◆ 「大きな物語」→自分が属する国、組織、地域のために自己犠牲を厭わずに尽くす＝「やるべきこと」にまい進し、自分の「やりたいこと」を喪失
- ◆ 「小さな物語」→個人の「やりたいこと」を起点に地域で取り組んでいく＝「やりたいこと」はわがままではない、他者の「やりたいこと」も大切にして、対話しながら取り組む＝自分の楽しさが大事

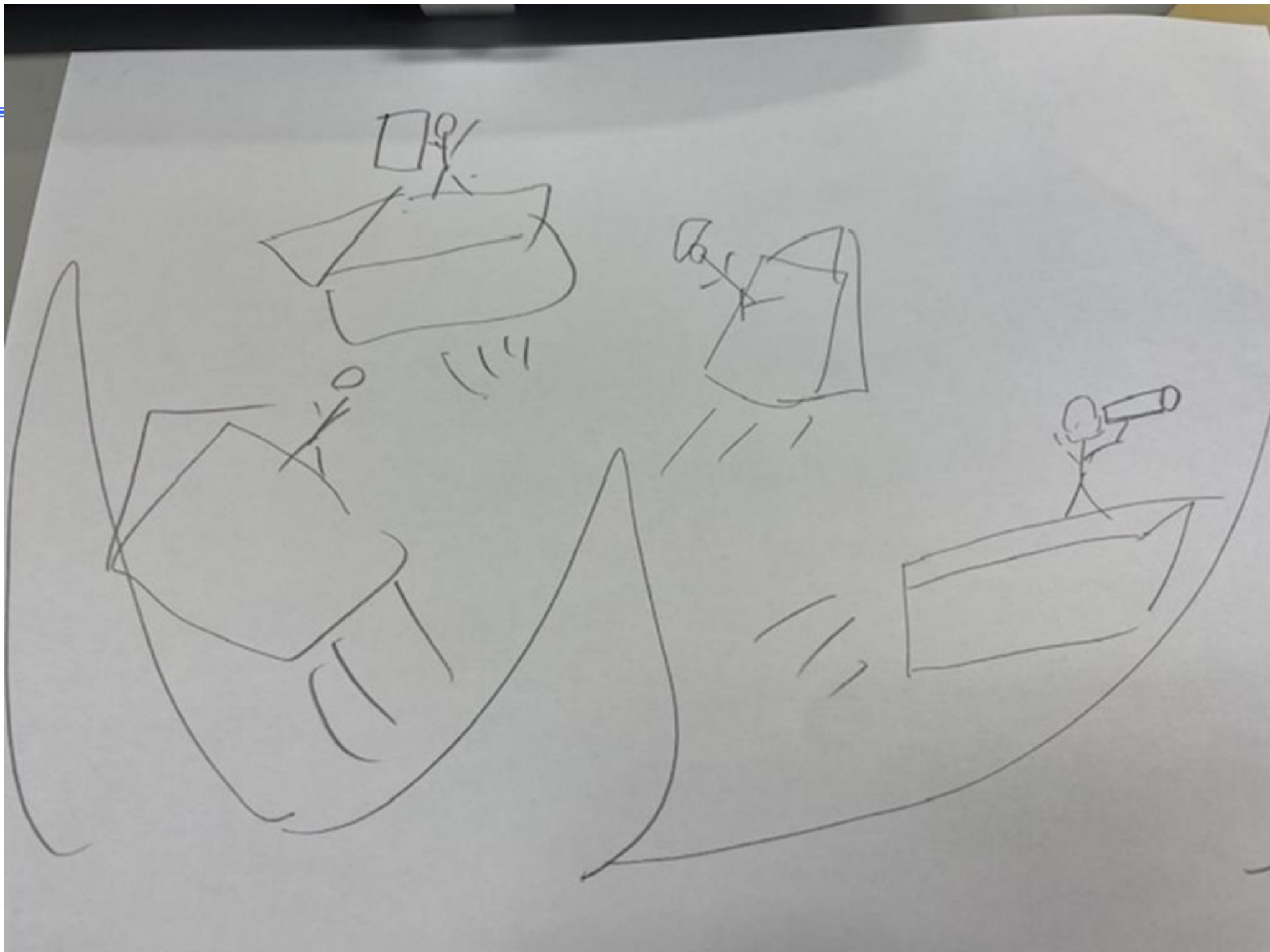
2.越境学習とはなにか (小さな物語を考える)

人は誰でも越境学習者（みんなの越境学習）

- ◆ 人は誰でも、固定観念に囚われる可能性
- ◆ 人は誰でも、固定観念を打破できる
- ◆ 葛藤して、固定観念を打破する学びは楽しい

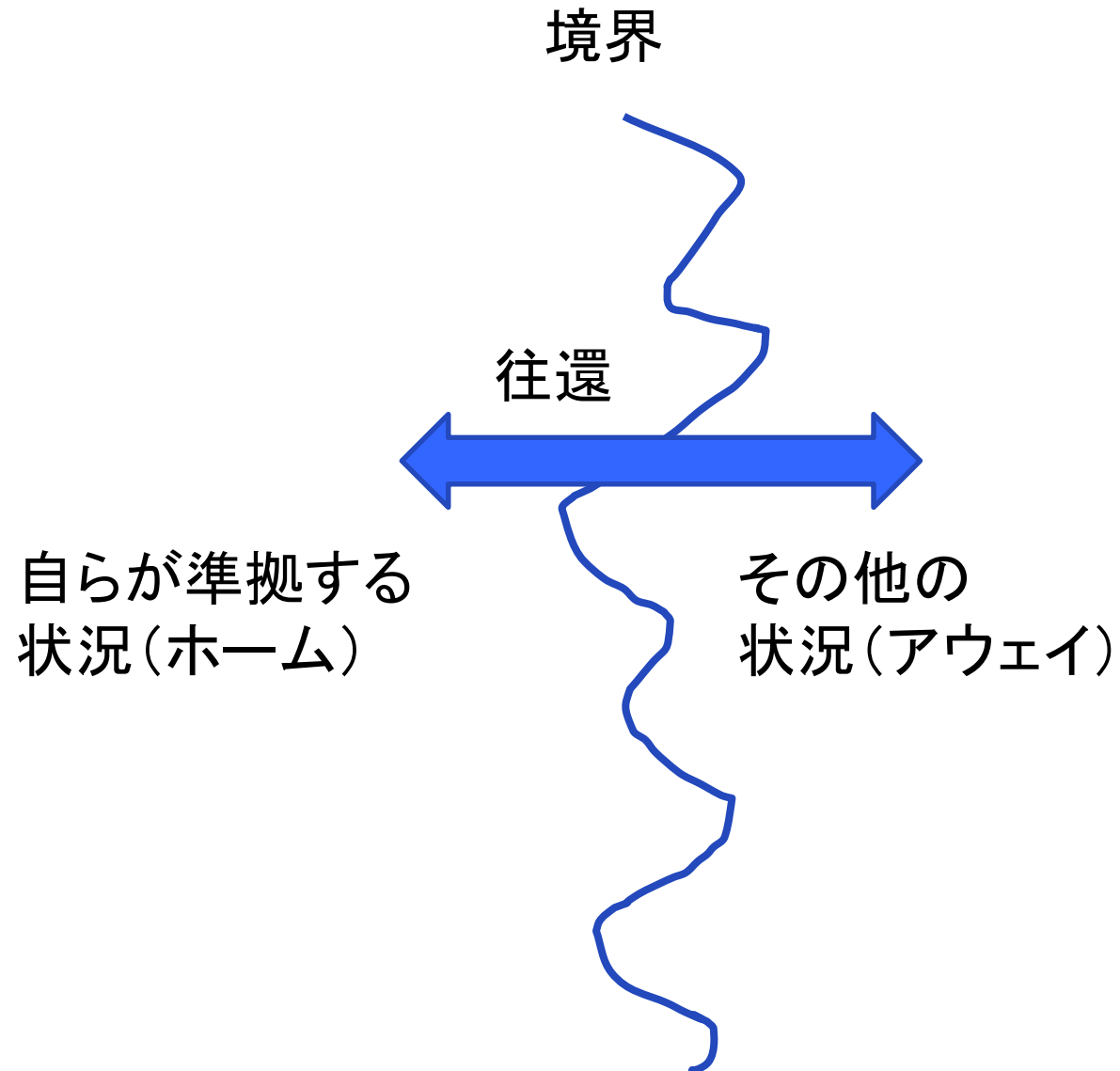


- ◆ シンプルな羅針盤
- ◆ 7-8人の人が、PCやスマホを持ち、同じ船にのっているイラスト
- ◆ 冒険、遊び心、船には一人で、不安とワクワク、ワンピースとドラクエ
- ◆ 最終的な表紙のイラストに



- ◆ 2020年度の経済産業省の越境効果の見える化プログラム（クロスフィールズ、ローンディール、ETIC.、エッセンス）
- ◆ 40名以上にインタビュー
- ◆ 2021年度の10数回の編集会議
- ◆ プロジェクトにとどまらない、越境学習の全体像、冒険というコンセプト
- ◆ ありそうでなかった、全体像の入門書

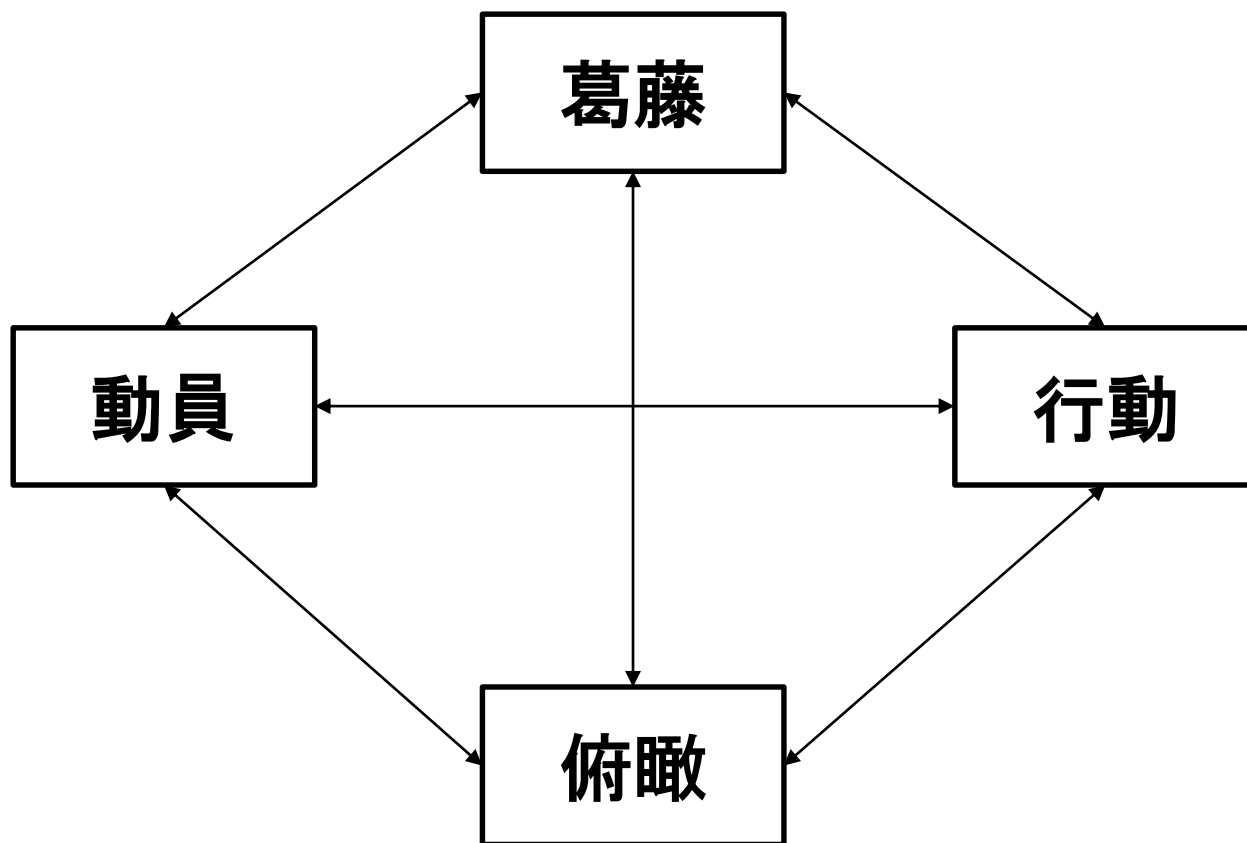
越境（ホームとアウェイの往還）



越境学習とはなにか

- ◆ 冒険（わくわく、ドキドキ）のメカニズム
- ◆ 企業主導（留職、レンタル移籍、ワーケーション、プロボノなど）と個人主導（副業、ボランティア、育児休職、マンションの理事会、ワーケーション、プロボノなど）
- ◆ 上下関係のなさ×異質性（葛藤）×抽象度（もやもや）→行為主体性、固定観念の打破
- ◆ 経験学習＝専門の熟達、縦の糸
- ◆ 越境学習＝熟達の意図的な停止、現状の前提と固定観念の打破、横の糸

越境学習者のアイデンティティ変容の相互作用プロセス



経営の実行力 vs イノベータの5つのスキル

経営幹部の4つの実行力

- ◆ 分析力
- ◆ 企画立案力
- ◆ 行き届いた導入力
- ◆ 規律ある実行力

イノベータの5つのスキル

- ◆ 関連づけの力
(関連づけの認知的スキル)
- ◆ 質問力
(現状に異議を唱える質問)
- ◆ 観察力
(新しいやり方の観察)
- ◆ ネットワーク力
(多様な背景の人々と幅広く)
- ◆ 実験力
(新しいアイデアを試す)

3.冒険人材をどう活かすか

地域の越境学習

- ◆ 国内留職（NPO法人クロスフィールズ）
- ◆ 2020年度リーダーズ・キャリア・サミット TEX 南相馬、釜石（株式会社ファーストキャリア）
- ◆ Field Academy（株式会社Ridilover）
- ◆ チェンジ・メイカー育成プログラム（学校法人立命館東京キャンパス）
- ◆ 事業創造型／人材育成型ワークショップ（株式会社パソナJOB HUB）

出所)経済産業省「未来の教室」事業 <https://www.learning-innovation.go.jp/recurrent/>

- ◆ machimori（課題先進地“熱海”の実践型研修）

出所)<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000101423.html>

- ◆ ラーニングワークショップ（JMAM）

- ◆ 岩手、新潟、神奈川、福井、鳥取、和歌山、高知

出所)JMAMのラーニングワークショップ <https://hatarakikata.design/>

- ◆ 社会課題解決プログラム（一般社団法人ALIVE）

出所)ALIVEホームページ <https://www.alive0309.org/>

- ◆ ヌーラボ リゾートワーク（東川町、佐渡、宮古島）

出所)ヌーラボ

<https://nulab.com/ja/blog/tag/%E3%83%AA%E3%82%BE%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E5%88%B6%E5%BA%A6/>

富士市青春市民事業：サードプレイスと越境学習による地域活性化

2022年7月31日

- ◆ 目的は「人の心に火を灯す、火付け人を発掘育成すること」
- ◆ 地域で、何かやり始めたいけどもやもやしている、もっと活動の幅を広げたい、などを考える人々の情報交換
- ◆ ワールドカフェで話し合い
- ◆ 地域活性化→自分がワクワクすることの発信が大事、さらに、他者が居心地のいい場は何か、というバランスも大事
- ◆ 多様な人とつながりつつ、学んだことは振り返り、まずやってみる
- ◆ 人を巻き込み、参加してもらい、ファン層を増やすという広報活動
- ◆ それにより、社会性と経済性を両立させ、継続性を確保する

- ◆ 11年間の中高一貫校の教員から、地域や世代を超えた学びあいができる環境を作ろうと決意
- ◆ 弘前に移住、知り合いも誰もいないので、9か月間、肝臓を傷めながら、ひたすら仲間づくり、「まちなかにリーダーの酒場をつくりたい」→どう思います?という問い
- ◆ 2017年にカラーニングスペースHLS弘前を設立、ガラス張りで視覚的にもオープンな場
- ◆ ひたすら飲み食いする「金曜日の夜はふらっと」を月1回開催
- ◆ 2-3日に1回はイベント、初年度80回のイベント、多彩なイベントをすることで、違うコミュニティの人を結ぶ
- ◆ 「地域のため」でスタートでなく、楽しいからやるを基本に

三島の特徴

- ◆ コロナ禍によるテレワークの増加を経て、新幹線の停車駅という圧倒的な利便性が武器に
- ◆ 「寺子屋」や私塾の「漢学塾」、庶民大学三島教室など人を育成する歴史
- ◆ ITや研究所を含む企業群の存在
- ◆ 加和太建設のLtGStartUpStudio、みらい研究所（みしまびと）、KDDIアジャイルセンター、giwa、三島クロケット、21経営研究会、観光協会、100人カイギ、三島バル三島スマートシティ推進協議会、あひる図書館、行政などUIJターン、二地域居住者を含む多様な人と場所のゆるいコミュニティがつながる→関係人口ウェルカムコミュニティが成立している

- ◆ テーマ「洲本市あるいはお住まいの市町村における、コミュニティ（サードプレイスなど）を軸とした地域活性化のあり方」
- ◆ コミュニティをつくる、デジタル化・可視化する（都会の良さに憧れる若手にも可視化して良さを分かってもらう、いったん地元を出ても戻れるように、特にUターン者に優遇措置をする
- ◆ 人口減少の肯定面も考えてみる、人付き合いが濃密でいいとは限らない、人付き合い濃密度ランキングで可視化して移住選んでもらう
- ◆ たまねぎを中心としてテーマパークや料理学校、また大学がなくても魅力ある高校づくりをし、外から人を呼び込む
- ◆ 世界の長寿地域である「ブルーゾーン」洲本版を目指す。洲本でゆったりとした時間を過ごす。デジタルデトックスや、たまねぎによる健康効果の多様な展開

域学連携とクエストカレッジは冒険である

- ◆ 学生主体の取り組みは、学生の冒険（自分の小さな物語を考えていく旅）
- ◆ その学生が、地域の面白い人たちとつながる。地域側の人たちも、学生と出会い、新しい発想生まれる
- ◆ 「バンカランカ」という言葉は、冒険が始まる魔法の言葉
- ◆ クエストカレッジは、越境学習のクエスト（探究する）＝冒険という言葉をもさらに進化させ、10年以上の域学連携のコミュニティをもさらに発展させる

被越境学習とは

- ◆従来は、越境する側（越境者）の学びが注目され、研究が進んできた
- ◆しかし、越境される側（被越境者）においても、学びは発生する
- ◆第1の被越境者＝越境者から見て、アウェイの場にいる人々
- ◆第2の被越境者＝往還している越境者が戻ったホームの人々

地域の中小企業での被越境者の学習プロセス

- ◆被越境者は、マジョリティ的だが「越境的学習における学びのプロセス」が発生
- ◆被越境者の学習は、越境者との関係性と社内との関係性が起点
- ◆越境者との協働＝新たな考えの獲得
- ◆社内との関係性：仲間と認知していなかった
→経験と内省概念化、実践→社内に対する認識変化と仲間の認知

出所：油布梨華 (2022)「東海地方の中小企業における被越境者の学習～他者との関係性および心理的変容に着目して～」
法政大学修士論文

越境学習＝冒険人材をいかす

- ◆ 越境学習で固定観念の打破＝個人の価値観を振り返り、それを「小さな物語」として地域活性化にいかす
- ◆ 柔軟な発想で、様々な関係人口（よそ者）と地域側の冒険人材を組み合わせる
- ◆ ゆるいコミュニティだから、多様な人が参画できる
- ◆ 「よそ者」として地域側の視点だけでなく、越境者と地域の冒険人材がともに学ぶ、越境学習の視点